

『過疎地域連盟会長賞』を受賞

「ウニ殻 肥料で藻場再生／磯焼けと戦う漁業者グループ」
 白川 浩治会長 過疎地域シンポジウム（熊本県）へ

磯焼けと戦う漁業者グループ「美国・美しい海づくり協議会（会長・白川 浩治）」と「余別・海HUGくみたい（会長・澤 貴幸）」が、総務省等主催「令和4年度過疎地域持続的発展優良事例表彰」において「過疎地域連盟会長賞」を受賞しました。

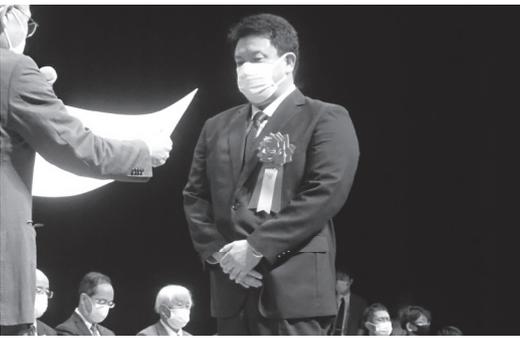
この賞は、過疎地域の持続可能な地域社会の形成と地域資源などを活用した地域活力の更なる向上を実践した全国の4団体が受賞しました。

当町の2つのグループは、令和3年3月に東京都で開催された第26回「全国青年・女性漁業者交流大会」での「農林水産大臣賞」の受賞に続く2回目の栄誉ある受賞です。

漁業者グループは、ウニ殻肥料による藻場づくりを実践し、ウニの安定生産・安定供給のみ

ならず、気候変動緩和策となる海藻による脱炭素（ブルーカーボン）に大いに貢献したことや、増産したホソメコンブを羊の飼料に利用する「水産と畜産の連携」による新たな産業の創出など、持続可能な循環型地域社会づくりへ繋がる取り組み内容が審査委員会で高く評価されました。

表彰式は、10月20日に熊本県で開催された、総務省等主催「全



▲白川 浩治会長（熊本市）



▲事例発表の様子（熊本市）

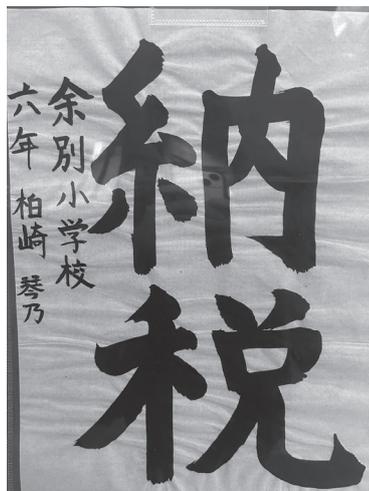
国過疎問題シンポジウム in くまもと」の席上で行われ、2つのグループを代表して白川 浩治会長が表彰状を受けられました。また翌日には水鳥 純雄 町農林水産課水産業技術指導員が事例発表を行いました。

2年連続の受賞を機にこの取り組みがさらに進展し、当町の「自然、人、産業の和で築くまちづくり」に寄与していくことが期待されています。

『小学生の税に関する書道』作品展示

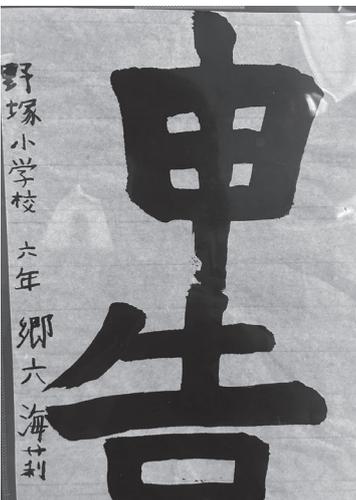
「税を考える週間」（11月11日～17日）で、余市税務署主催の「小学生の税に関する書道」作品募集が行われ、北後志5町村から児童が税について考え、表しました。11月8日～17日の間に、総合文化センターで書道作品の展示が行われました。

積丹町の11点の力作の中から



▲柏崎 琴乃さん（余別小6年）余市税務署長賞

▼郷六 海莉さん（野塚小6年）余市地方法人会長賞



北後志消防組合積丹支署

— 消防ニュース —

最新配備機材で警防訓練！

11月7日の警防訓練は、積丹支署裏の防災倉庫で火災が発生し、建物内に逃げ遅れている人がいるという想定です。

スモークマシンを使用して煙を充満させ、何も見えない状態で要救助者（ダミー人形）を救出する訓練や、建物内部の消火訓練等を行いました。また、B&G防災拠点事業により配備された、煙の中でも熱を感知することが可能な熱画像カメラを使用し、要救助者や火点を見つけ出す訓練が行われました。

全職員参加の訓練で、より災害現場に近い臨場感のある訓練が実現できました。

こうした訓練は今後も継続して行い、隊員間の連携や現場対応能力の強化を図り、町民の皆様が安心して暮らせる町づくりに貢献していきます。



地域おこし協力隊 レポート

Vol.6

4月1日付けで9名の『地域おこし協力隊』が委嘱され、町内の団体や事業所で活躍しています。各隊員の活動内容や今後の目標などを広報しゃこたんで連載しています。



今月の地域おこし協力隊

あらお 荒尾 さおりさん

【(一社) 積丹観光協会所属】

(一社) 積丹観光協会の荒尾さおりと申します。

(一社) 積丹観光協会は、建物の改修が終わり、従来の中央バスの定期券とICカードへのチャージ販売を行うほか、今年の春より積丹産直市場としてお土産やソフトクリーム等の販売を始めました。

私は事務局長としてお仕事させていただいておりますが、職員は私を含めて3人しかいませんので、産直市場での商品の仕入れから販売、観光PR活動など、幅広く行っています。

コロナ禍のため、観光客の動きは慎重気味とは言え、夏には名物のウニ丼や、積丹町の自然の美しさを求めて、多くの観光客が訪れてくれました。

秋になり今季のソフトクリーム販売は終了しましたが、冬期間限定で週に1・2度、『気まぐれDeer』として、炊き込みご飯・お味噌汁・カレーなどを日替わりでランチタイムに販売することになりました。『気まぐれDeer』と名付けたこともあり、仕入状況によってメニューが変わりますので、何が出るかはそ

の日のお楽しみとなります。建物の改修で飲食スペースも設けていきますので、お気軽にお立ち寄りください。

積丹町の生活にも慣れてきましたので、今後はボランティア活動も積極的にやりたいと思います。10月31日は『子ども第三の居場所』でハロウィンコンサートを行い、札幌で活躍しているヴァイオリニストの齊藤航さんをお招きする手伝いをさせていただきました。私は音楽大学卒業で、以前は札幌の音楽院で9年ほどピアノ講師として勤務していました。積丹町の皆様に生の音楽をお届けする機会を作れたらと思っています。

来月は『子ども第三の居場所』と『びくに保育所』で齊藤航さんのヴァイオリンと私のピアノ伴奏でクリスマスコンサートをさせていただきました。ことになりました。

子供たちが生の音楽に触れる時のキラキラした瞳の輝きを見ると、この活動もぜひ続けていきたいと思っています。

まちの日記帳



認知機能低下を予防！ 脳活塾

10/14

10/21

10/28

認知機能低下を予防する教室「脳活塾」が、総合文化センター・日司みなと防災センター・余別地区コミュニティセンターで全3回行われ、計22名が参加しました。

認定NPO法人シーズネット（札幌市）の柿沼 英樹さんを講師に迎え、体操のほか、漢字パズルや間違い探し、同じ数字を探すゲームを行いました。

また、篠原管理栄養士（住民福祉課）が野菜に含まれる認知症予防に必要な栄養素についての講話を行いました。

参加者は、様々な脳のトレーニングに苦戦していましたが、笑い声が飛び交うなど脳活を楽しみました。



▲日司みなと防災センター

イタズラしちゃうぞ！ 保育所「ハロウィン」

10/27

10/31

びくに保育所では、10月27日に、子どもたちが作ったお面やマントを身につけて、「ハッピーハロウィン♪」と言いながら、エイジングステーション「やすらぎ」や特別養護老人ホーム「ゆうるり」を訪問しました。

訪問先では「可愛いね～」、「似合ってるよ」などと声を掛けられ、子どもたちは大いに喜んでいました。

また、10月31日に、みなと保育所でもハロウィンが行われ、子どもたちの可愛い姿に心が癒されました。



◀びくに保育所



▶みなと保育所

海の命から食を学ぶ！

ブリの荷揚げ見学・料理のツアー

10/29

㈱積丹スピリット（代表取締役：岩井 宏文）等主催のブランドブリ『鮭宝』の荷揚げ見学と料理を味わうツアーが10月29日に行われ、町外の飲食店事業者ら14人が参加しました。

鮭宝は、定置網漁を営む尙丸漁水産が船上活締めした、重さ7kg以上、脂肪率15%以上のブリにその名が冠されます。東しゃこたん漁協が令和元年にブランド化して以降、道内外で評価が上昇し、ブリの本場である富山県氷見市へも出荷されています。

漁協職員による解説により荷揚げ、選別、競りを見学し、ヤマシメ石蔵へ移動後は、別所 範一さん(美国町)により捌き方が披露され、参加者は鮭宝を食べながら食の大切さを学びました。



▶別所 範一さん（美国町）



楽しく学んで歯を守る！ 巡回歯みがき教室

11/4

11/18

11/25

歯科衛生士の林 祐子さん（蘭越町・写真）を講師に迎え、積丹町子どもの歯を守る会（高野秀喜会長（町歯科診療所歯科医師））が、巡回歯みがき教室を保育所と子育て支援センター、町内小中学校で行いました。

小中学生は「もし、自分の歯に値段をつけるとしたらいくら？」というタイトルで自身の歯について考え、また歯の模型を使用し、正しい歯のみがき方やフロスの使い方について学びました。

保育所と子育て支援センターでは、園児の保護者も参加して、歯並びへの影響などについて学びました。



▲日司小学校

木に触れ合う貴重な機会！ 子ども第三の居場所「木工教室」

11/7

森林保全団体の積丹グリーン（代表：森田 信道）の協力による「木工教室」が子ども第三の居場所で行われ、町内小学校児童17名が参加しました。

児童は配布されたコースターを紙ヤスリで表面を磨き、それからコースターに書き込みたい絵や文字を紙に書き、その紙をスマートフォンで撮影し、パソコンに取り込み、レーザー加工機でコースターに書き込みました。

子どもたちは自分たちが書いた絵や文字がレーザーでコースターに書き込まれるのに興味津々の様子でした。



正しい姿勢できれいな文字！ B & G書道教室

町内の小学生を対象とした「B & G書道クラブ」がB & G海洋センターで毎週行われています。

山崎 正義さん（余市町）を講師に迎え、児童たちは与えられた課題を真剣に取り組んでいました。

山崎講師からは「きれいで正しい文字」を書くための基本として、「背筋を伸ばして、肩の力を抜き、正しく筆や鉛筆を持つ姿勢」を身につけることの大切さについて指導を受け、児童たちはきれいな文字を書くために、熱心に学んでいました。

